

進化!ぶぐぶぐ

「ピーンポーン」

今年もおじいちゃんからぶどうがときました。

「ぶどうだ、ぶどうだ!」

おじいちゃんは、毎年ぶどうを夏に送ってくれます。おじいちゃんのぶどうは、味がこくてあまいです。

「今年はつぶどうはどうだろう?」

お母さんが受け取りのほんこをおしおわつていないのに、ゲームテープをびりびりやぶいて二だん重ねのダンボールをあけてみました。

「おーでっかい。」

一つぶ一つぶがすくく大きい!しかも一ふさにぎっしり実がつまっています。どの実もさむくはないのにおしくらまんじゅうをしているようです。一口で食べきれないほどの大きさだけど、食べてみたら、口がフクのようになつてしまいました。すると口の中いっばいに、あまいジュースがじゅわーっとしみ出してぶどう天国にとうちやくしました。このおいしさに感どうして、次から次へと手が止まりません。今年のおぶどうはさい高です。

そんなおじいちゃんのさい高のぶどうですが、ぼくがようち園生のころは、今年のおぶどうよりも、つぶが小さかったり、ふさからぼろぼろ落ちてしまつていました。でも、ぼくが小学一年生の時には、ふさからぼろぼろ落ちないぶどうになりました。そして、きよ年のぶどうは今年よりは小さいけれど、一つぶ

ずつの実が大きくなつていました。おじいちゃんのぶどうは、毎年進化しています。

そういえば、前にいっしょにぶどうのう園へ行つた時におじいちゃんが、のう家の人に一生けんめい話を聞いていたことがあります。それから、おばあちゃんが、

「ぶどうのふさが大きくなる前に、ふさの先の青い実を切ると、ぶどうの実が大きくなるんだよ。」

と言つていたのを思い出しました。ぼくがようち園生のころから、味はこくてあまくておいしかったけれど、おじいちゃんとおばあちゃんは、よりおいしくそだてるために工夫してきたのだと今年のおぶどうを食べて分かりました。

毎年夏になるとぼくはおじいちゃん、おばあちゃんと、りよ行に行きます。その時に、自分たちの荷物もたくさんあるのに、大きなダンボールに、二だん重ねで、ぶどうも持つて来てくれます。

「理仁君たちがおいしいおいしいって言ってくれるからね。」とニコニコしながらぶどうを出してくれます。ぼくは、りよ行も楽しみですが、ぶどうも楽しみです。

おじいちゃん、おばあちゃんからぼくは、ど力すれば、けつかが出ることをぶどうから教わりました。いつもおいしいぶどうをどうもありがとうございます。

重白 理仁